

令和3年9月6日

各鉱山 製錬所鉱業権者・鉱業代理人 殿

中国四国産業保安監督部四国支部長

鉱山における災害の防止について【注意喚起】

日頃から鉱山の保安確保にご尽力いただき御礼申し上げます。

さて、令和3年1月から7月末までの全国の災害発生件数（鉱山保安法に基づく報告件数）は「17件」となっており、このうち四国管内では「2件」の災害（いずれも火災）が報告されております。また、同期間における全国の罹災者数は「8名」であり、四国管内では罹災者は生じていなかったものの、8月に入ってから2件の重傷見込み災害が発生し罹災者数が「2名」に増加しております。（添付資料参考）

これらの災害の直接的な原因は作業における不安全な状態に対する危険認識の甘さや不注意にあると推定されますが、現場全体において保安意識に緩みが生じていることが危惧されます。最近の夏の厳しい暑さ、頻発する大雨、新型コロナウイルス感染拡大など、現場を取り巻く状況は好ましいものではありません。しかしながら、現場の安全確保は第一であり、保安管理担当者と鉱山労働者間、あるいは作業間でのコミュニケーションを密にとるなどして、鉱山労働者が高い保安意識を保ちつつ、安全に作業を進めていくことが重要です。

つきましては、各鉱業権者（鉱業代理人）の皆様におかれましては、今一度、貴鉱山内において、災害防止への注意喚起を促すとともに、適切な保安教育等を行い、災害の未然防止に努めて頂きますようお願い致します。

（鉱山保安課主管）

災害等情報（速報）

鉱種：石灰石	鉱山の所在地：高知県					
災害等の種類： 坑外・墜落	発生日時： 令和3年8月20日(金) 13時30分頃	罹災者数	死	重	軽	計
					1	1
罹災者（年齢、職種、直轄・請負の別、勤続年数、担当業務経験年数）： （54才、主任技術員、直轄、勤続年数24年4ヶ月、担当業務経験年数：14年1ヶ月）						
罹災程度：8/20 初診：左第8・9・10肋骨骨折及び左前腕挫傷（休業1日）、 8/24 診断：外傷性血気胸、多発性肋骨骨折（休業見込11日）						
<p>【概要】</p> <p>当日、13時より係員見習A及び作業員Bは、山元の830mLポンプ小屋にある2台のポンプを交換する作業に従事していた。</p> <p>作業員Bは、当該ポンプ小屋資材搬入出用の扉を開けたのち、係員見習Aが運転する1tトラックを後退誘導した。車両停車後、作業員Bは1tトラック後方のあおり（荷台の枠）を下ろした。その際、あおりは、搬入出用の扉に接触し下方に倒れないことを認識していたが、ポンプ搬入に支障のない高さであり、あおりを手で押しても下方に倒れなかったため、そのまま作業を継続した。</p> <p>13時20分頃、主任技術員の罹災者が当該作業に合流し、罹災者は1tトラックの荷台で、係員見習A及び作業員Bは当該ポンプ小屋内の搬入出口下部で、分かれて作業することとした。その際、作業員Bは罹災者へ、あおりが搬入出用の扉に接触していることを伝えていた。</p> <p>3名は1台目のポンプ（396kg）を搬入後、2台目（68kg）の搬入に取り掛かった。13時30分頃、罹災者が1tトラックの荷台で資材搬入用のトロリー（滑車）に掛けていた電動チェンブロックを引き寄せようとあおりへ足を掛けたときに、扉に接触していたあおりが下方へ倒れ、その勢いのまま1.2m下に墜落しポンプ小屋搬入口の梁で左胸部を強打した。罹災時、係員見習A及び作業員Bは1台目のポンプを搬入した時に玉掛けしていたシャックルを外す作業をしており、罹災状況は目撃していなかった。</p> <p>13時40分頃、罹災者からの電話連絡を受けた工作係長は、当該ポンプ小屋へ向かい現認し、罹災者と共に最寄りの病院へ向かった。診察の結果、左第8・9・10肋骨骨折及び左前腕挫傷と診断された。罹災者は、翌土曜日は休業し休日明けの月曜日は出勤したが8月24日（火）に通院したところ外傷性血気胸で入院が必要と診断された。</p>						
<p>【お問い合わせ先】</p> <p>中国四国産業保安監督部四国支部 鉱山保安課 内田、久保 電話番号 087-811-8591</p>						



接触箇所

写真1 罹災前



写真2 罹災後



写真3 ポンプ小屋搬入口の梁
 (罹災者が左胸を強打した箇所：赤丸印)
 (黄色の手摺は、作業時外されていた。)

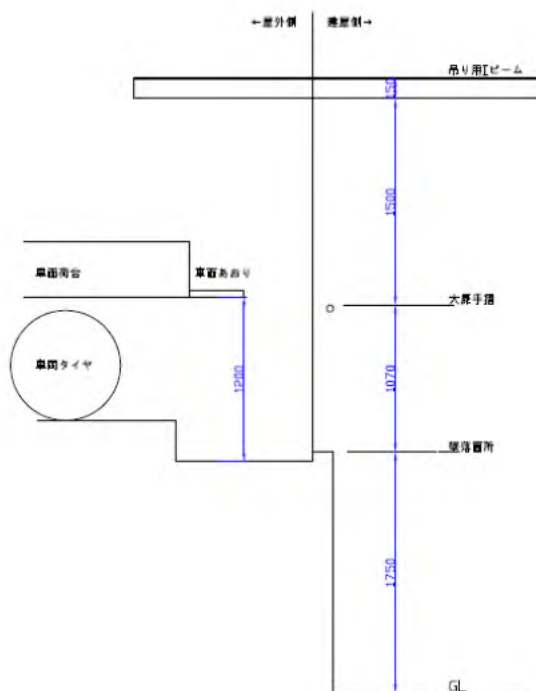


図1 墜落箇所の断面図 (単位：mm)

災害等情報（速報）

鉱 種：石灰石	鉱山の所在地：高知県					
災害等の種類： 坑外・機械のため	発生日時： 令和3年8月26日(木) 17時32分頃	罹災者数	死	重	軽	計
				1		1
罹災者（年齢、職種、直轄・請負の別、勤続年数、担当業務経験年数）： （57才、係員、請負、勤続年数33年8ヶ月、担当業務経験年数：24年7ヶ月）						
罹災程度：多発肋骨骨折、肺挫傷、腸間膜損傷の疑い、腰骨骨折 重傷見込み（休業見込み日数は不明）						
<p>【概要】</p> <p>当日、17時10分頃から、船積担当係員の罹災者Aと作業員Bは、船積ベルトコンベアのグリズリーバーの点検を、成品係員Cは、リクレーマー（山積みされた鉱石を回転するバケットですくい上げて船積ベルトコンベアへ乗せる機械）の点検を行っていた。</p> <p>17時30分頃、無負荷運転状態のリクレーマーのバケットに、鉱石が残留していないかどうかを成品係員Cが点検中、グリズリーバーの点検を終えた罹災者Aと作業員Bが、作業の様子を確認するため合流した。</p> <p>鉱石が残留していないことを確認したが、バケットに傷があるように見えたことから再点検を行うため、成品係員Cは、リクレーマーのオペレーターDにバケットを停止するように指示した。</p> <p>罹災者Aと成品係員Cはリクレーマーのバケットの設備点検を行うため、バケットが停止するのを待っていたが、罹災者Aが、惰性で回転しているバケットの爪を無意識に掴んだところ、そのままバケットに持ち上げられる形で半周し、高さ約5m程度の位置から地面に墜落しり災した。</p> <p>17時50分頃に救急車を要請し、病院に搬送され、肋骨骨折等の診断を受けて入院した。</p>						
<p>【お問い合わせ先】</p> <p>中国四国産業保安監督部四国支部 鉱山保安課 内田、久保 電話番号 087-811-8591</p>						



写真：罹災状況（赤印の箇所に墜落）